

収録・解説 酒井董美

語り手 大原寿美子さん  
(明治40年生まれ)  
昭和54年9月15日収録

## あらすじ

昔。若い者が歩いていると、3人の子どもが亀をいじめている。かわいそうに思い、金で買い助けてやる。

また行くと、子どもたちがアブの尻に棒を挿そうとしてるので、金を払ってアブを逃がしてやった。

又ら行くと、長者の屋敷があり、そこに大きな堀があった。堀のまん中に1本の松の木があり、そこには鶴が卵を産んでいた。

そこに立て札があり、「この鶴の卵を取ってぎたら、うちの婿にしてやる」と書いてある。若い

## 亀とアブの報恩

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

## 生き物はいじめるものでない

者は「このような名のあ木に連れて行ってくれ長者の婿さんには簡単にはなれないだろう」と

若い者は松の木に登って鶴の卵を取り、懐へ入杯酒の酌をしながら「と亀がすーっと寄って来られて屋敷まで行き、長者言われた。

見ればみんないい娘ばかり。あれもこれも呼ばれて並んで座っている。関敬吾『日本昔話大成』「どれだろうか、きれいでみんな座っておられるの」婚姻・難題婿に属が「...」と思っていいたら、し、「蜂の援助」として障子から助けたアブがや次のように位置づけられて来た。アブは娘たちの周りを飛びながら、酌取りさせえブンブン

と、中の娘に向けてそうに婿を探している。言つものだから、若い者は中の娘に杯をさせたて失敗するが、彼は長者ら、案の定、それがそのの長者の娘だった。そのでその婿になったと。だから、生き物はいじめるものではない。よって解決して婿になる。そればかり。

## 解説

大原さんの語りの中には「生き物はいじめるものではない」という教訓が、さりげなくつちり」は、鳥取県東部

けられている。学校教育 地方の結句の代表的なものであったかつてのわが国では、このように昔話の中に、それとなく教

(元鳥取短期大学教授)

(水曜日に掲載)